議会だより もろつか

平成31年1月

平成31年 第160号
編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村議会

立岩　桂正八幡霜月祭
【写真提供】諸塚診療所　所長　桐村　泰廣 氏

もくじ

新年のごあいさつ …… 2
平成30年度一般会計補正予算 …… 3
一般質問 …… 4
所管事務調査報告 …… 5
議会活動報告 …… 6

〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683 ☎(0982)65－1130

新年のごあいさつ

新元号元年に向けて

諸塚村議会議長　若本　幸徳

村民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申しあげます。年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申しあげます。

昨年を振り返りますと、地震・台風・大雨等により前年同様全国各地で自然災害の多発した年でしたが、本村は比較的被害が少なかったのは幸いでした。

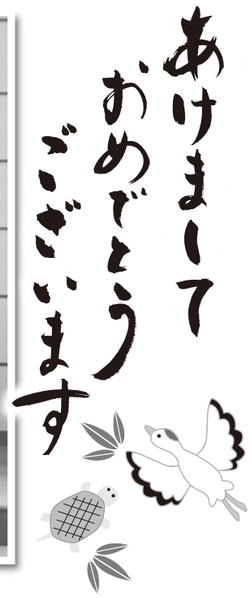
一方、政治面に目を移しますと、世界中がアメリカ・トランプ大統領の言動に振り回された感じの一年でした。国内では第四次安倍改造内閣の発足となり、人口減少対策として働き方改革を掲げ、退職年齢延長の検討を始め、四月からは外国人労働者の受け入れ拡大の改正入管法が国会での激論の末、成立しました。

さて、本村では昨年四月から診療所に齊藤先生が就任され、定着医二人体制となり、村民の安心安全がさらに充実しました。また、林業面では待望の森林環境譲与税が創設され、林業維持発展に期待が持たれるところです。加えて本村のＦＳＣ森林認証材がオリンピック・パラリンピック関連会場に使用されることとなり本村林業ＰＲに明るい出来事となりました。

反面、少子高齢化による人手不足はあらゆる分野において深刻さを増しております。全国的な人口減少の進む中、一村のみでの解決は難しい問題ですが、昨年末の県知事選挙において三選を果たされた河野知事も最重要政策としており、その手腕に期待がかかります。

本村議会も現体制では四月の選挙までとなりましたが、住みよいむらづくりに全力で取り組んでまいりますので、昨年同様、最後までご支援よろしくお願いいたします。

本年が皆様にとりまして幸多き年でありますよう、ご祈念申しあげましてあいさつといたします。



東京オリパラ競技場に諸塚村産材使用
平成30年度一般会計補正予算

総額34億7,200万円（補正額 6,100万円）

◆一般会計の主な補正内容◆

（単位）万円

「総務」	・基金利子積立金	355万円
	・消防用小型無線機等導入	30万円
「企画」	・電気自動車充電スタンド整備事業（民間実施による減額）	▲285万円
「住民」	・住基ネットワークシステム改修	162万円
	・子ども子育て支援事業ニーズ調査委託料	66万円
	・荒川保育所改築に伴う備品購入	125万円
	・簡易給水施設整備補助金（5施設）	124万円
「産業」	・東京オリパラ選手村木材供給事業	166万円
	・椎茸団地施設台風災害による災害復旧事業	247万円
「建設」	・黒葛原地区用水路改修事業	970万円
	・林道開設改良事業	▲9,134万円
	・林業施設災害復旧事業	4,150万円
	・耕地災害復旧事業	1,645万円
	・土木施設災害復旧事業	6,054万円
「教委」	・村立小学校空調施設設備事業	3,310万円

◆特別会計の主な補正内容◆

「国　　保」	・保健事業費	45万円
	・諸支出金	235万円
「後期高齢者医療」	・総務費	61万円
「介　護　保　険」	・保険給付費等(相殺による増減ゼロ)	0万円
「診　療　所」	・総務費	120万円
	・予備費	▲120万円

◆条例の制定等◆

「総務課」
- 議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例の制定
- 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定

「住民福祉課」
- 諸塚村地域包括支援センターが包括的支援事業を実施するための基準を定める条例の一部を改正する条例の制定

「建設課」
- 工事請負費の変更

諸塚村産材がオリパラ競技場に

表彰伝達

代表監査委員の甲斐重信氏に
全国町村監査委員協議会から功労者表彰

一般質問

今回2名の議員が質問をしました。

諸塚村出身高校生に対する就学補助を求める

田原　尚美 議員

田原議員

問 宮崎市周辺の高校に進学する生徒が増加傾向にあり、ここ1年で生徒、保護者を取り巻く環境は大きく変化してる。保護者の要望に応えるために早い決断を望みたい。

甲斐教育長

答 私たちの頃は、親たちは子どものために大変な苦労をして私たちを高校や大学に進学させてくれた。安易に行政の補助に頼るのではなく、子どものために頑張っている親の姿を見せるのも、大切な教育ではないかなと考えている。

田原議員

問 高校に進学すると負担が大きくなるということで、保護者が一緒に転出するという状況も確認されている。保護者の負担を軽減し安心して村内で働きながら仕送りができる体制を整えていただきたい。

甲斐教育長

答 現在ある村の奨学金制度でも帰って来れば3分の2は免除になるという有利なものがある。どういう形にすれば帰って来るのかということも、保護者の皆さんの意見を聞かせていただきたい。

甲斐 教育長

総合長期計画及び過疎地域自立促進計画について

中田　政雄 議員

中田議員

問 総合長期計画は2020年まで1年から2020年まで、過疎地域自立促進計画は、平成28年3月に提出され、2年と半年余りが経過したが現状はどうであるか。

西川村長

答 過疎地域自立促進計画については、国庫補助率のかさ上げや過疎対策事業債の発行、都道府県代行制度などがある。過疎対策事業債を有効に活用しており、村道・林道等の道路整備をはじめ、近年では、消防系の防災無線のデジタル化事業、諸塚保育所新築工事、福祉館改修工事での活用、現在新築中の荒川保育所にも充てる予定で計画を進めている。総合的かつ計画的なむらづくりにつながっている。

西川　健 村長

中田議員

問 第5次総合長期計画において、林業立村・産業振興については具体的に、どのようなことをお考えか。

西川村長

答 具体的な施策目標として、仕事づくり、移住定住政策、子育て支援、むらづくりの4つの柱を置き地域創生本部で推進している。

中田議員

問 オリパラのメインスタジアムを含む選手村で使われたということをアピールし、消費拡大・需要拡大に向けて努力すべき。素材産出者、森林組合、行政を含めた協力体制についてどのように考えるか。

西川村長

答 森林組合、素材生産業者や関連する方たちと共有の認識をもって一緒にやるべき。オリパラの施設に諸塚村産材が使われたことは、非常に反響が大きかった。

所管事務調査報告

総務産建常任委員会

9月25日(火)から28日(金)にかけて、所管事務調査を行いました。その概要を報告します。

岐阜県高山市にある木質バイオマスを利用したひだ荘川温泉「桜香の湯」を視察した。

「桜香の湯」の木質バイオマス利用は、「森から生まれる熱を温泉に」をキャッチフレーズに平成29年8月にスタートした。事業主体は民間会社飛騨五木グループの井上工務店で、自然エネルギー日本一を目指す高山市と20年契約を締結している。県からは、5,000万円の補助を受けているとの説明であった。燃料は、製材等の過程で発生する端材を活用しており、年間416tのチップを供給している。熱代金として7・8円／kWh(税抜き)で施設に販売、1年間熱供給売り上げ見込額は約870万円(税抜き)となっている。

木質チップボイラーは、オーストリアにあるフィースマン社のボイラーを導入、月平均負荷約400kWに対応するため最大出力101kWのボイラーを4台運用している。小規模なものを複数台設置することで、低負荷の時期(夏場)にも効率よく対応が可能とのことであった。ボイラーの特長としては、自動着火装置付きで燃焼炉と熱交換器用の灰を全自動で除去することで、メンテナンスが容易であると感じた。課題と言われるチップの含水率については、製材の端材を利用していることもあって、気にしていない様子であった。

いずれにしても、稼働1年目ということで今後に注目したい。

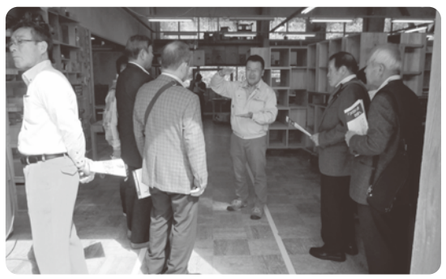
続いて、高山市にあるオークヴィレッジを視察した。オークヴィレッジは、1974年に創設され持続可能な循環型社会を目指し、「木」という再生可能資源によるモノづくりを続けている。JVCケンウッドとmoretrees(モア・トゥリーズ)が関わる、「やましぎの杜」等の自然音を再生する木製のスピーカー製作を、オークヴィレッジが受託していることが視察のきっかけとなった。

現地は自然豊かな広葉樹林の中にあった。外から見ると何の変哲もない山小屋風の作業場や展示場であったが、中に入ってみると広葉樹を中心とした材料を生かした見事な商品が並んでいた。日本産無垢材が生かされた〝たくみ〟の技である。会社が掲げる三つの理念は、『一、百年かかって育った木は百年使えるものに一、お椀から建物まで一、子ども一人、ドングリ一粒』とのことであった。

続いて、高山市清見町にある〝森林たくみ塾〟を視察した。モノづくりを通して目指すのは、森と暮らしをつなぐ木の文化再構築、そして持続可能な社会の実現である。ここで学ぶ塾生には、技術養成のための特徴ある様々な実践講座カリキュラムが組まれ、2年間の修行を経て木工職人になり、全国各地に就職している。単なる技術習得にとどまらず、社会に貢献する人材育成に重点が置かれている。視察中は板組の木箱などを製作中であったが、その製品を販売して学費に充てるため学費は無料とのことであった。

豊富な森林資源を有する本村にとって、今回の視察は、学ぶべきところの多い有意義な調査となった。

木質チップボイラー


森林たくみ塾

議会活動報告

月	日	行事名	場所
11	5	日向東臼杵広域連合議会	日向市
	15	(仮称)佐土の谷1号トンネル貫通式	諸塚村
		幹部議員研修会	宮崎市
	19	五月会研修会	諸塚村
	21	議長全国大会・郡議長会政務調査(～23日)	東京都・岐阜県
	26	日向市・東臼杵郡議長連絡会議員研修会	日向市
	27	広報研修会	宮崎市
	29	町村議会議長会役員監事合同会	川南町
	30	議会運営委員会	役場
		議会全員協議会	役場
		東臼杵郡町村議長会臨時総会	日向市
12	7	第4回定例議会本会議	議場
	12	県道2路線整備促進要望活動	日向市
	20	県市町村事務組合議会臨時会	宮崎市

広報編集委員会

郡議長会政務調査

トンネル貫通式

随想

「地球温暖化」

山本　利夫

謹んで新春のお慶びを申しあげます。

本年も諸塚村のご発展と村民の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申しあげます。

今回は地球温暖化について考えてみました。中でも身近な影響として、異常気象があります。近年は記録的な猛暑や豪雨が日本列島を襲っています。また台風も巨大化の傾向にあるようです。さらに動植物の生息域もだんだんと高緯度化しています。このように地球全体の気候や生態系に大きく影響しています。

これらの要因は、太陽からの熱を温室効果ガスが調整してくれていますが、このガスが多くなると熱の調整ができなくなり、地球温暖化が起きるのです。温室効果ガスの中でも二酸化炭素が一番多いのですが、削減する身近な方法としては1再生可能エネルギーの導入(太陽光発電、太陽熱温水器)2家庭での電気の無駄遣いをなくす。また、自家用自動車の使用を控える。

など、多くあるようです。しかし二酸化炭素は、石油や石炭、天然ガスなどを燃やすことで多く発生していますので、世界の国々が協力しないと効果は上がりません。京都議定書やパリ協定というのはよく聞きますが、多くの国や地域があり、また先進国や発展途上国もありますので、思惑の違いや意見の違いがあり、まとまっていません。

世界の国々が、地球の安定のため私利私欲を無くし、相手を思いやる気持ちを持ちながら話し合い、安心して暮らせる日が早く来ることを願いたいものです。

編集後記

新年おめでとうございます。

平成最後の年の漢字一文字に“災”が選ばれました。振り返ってみますと日本国民全体が災害に苛まれた辛い一年でした。いよいよ五月から新元号に変わるわけですが、新元号一年となる今年が災害のない穏やかな年でありますように願いたいものです。

私たち、編集委員も内容の充実した読みやすい広報紙づくりに一生懸命取り組んでまいります。引き続きご愛読いただきますようお願いいたします。

(編集委員)
田原 尚美　堀　英博
岩本 國和　山本 利夫

議会傍聴してみませんか？

次回の定例会は3月6日(水)開会予定です。
心よりお待ちしています。
お問い合わせ：議会事務局
TEL 65－1130